

## 田村友一郎 × 服部浩之 対談&作品上映

Week End/ End Game: 展覧会の制作過程とその背景の思考について

広島市現代美術館で、年間を通じて開催しているビデオアートプログラム「世界に開かれた映像という窓」。2008年よりスタートし現在第59回まで回を重ね、長期にわたって開催しているプログラムです。

このたび本プログラムの関連企画として、第23回の出品作家である田村友一郎氏と、インディペンデント・キュレーターとして活躍する服部浩之氏を迎え、トークを行います。

2011年に本プログラムで紹介した映像作品《NIGHTLESS》から約7年を経た現在も、田村友一郎は、作品制作における本質的な手法を継承しながら新たな提示のかたちを模索し続けてきました。ときに展覧会という規定された枠組みを超えて、作品/プロジェクトを展開する田村の作品がどのような思考と過程を経てつくられるのか。《NIGHTLESS》以降の作品上映を通してその変遷を踏まえつつ、昨秋開催された田村の個展「試論：栄光と終末、もしくはその週末/Week End」(小山市立車屋美術館)を、ゲストキュレーターとして企画した服部浩之氏とともに、展覧会の制作過程や企画意図など、実現までの裏側をお話しいたします。

《NIGHTLESS》2011年、カラー、サウンド、25'00"

全編が世界各地の都市で撮影されたGoogleストリートビューのイメージで構成された、作家本人が一切撮影を行わずに制作したロードムービー。第14回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞受賞(2011年)。

【日時】2018年4月21日(土) 14:00-16:00

【会場】広島市現代美術館 地下1階ミュージアムスタジオ

※参加無料/事前申込み不要

### 田村友一郎 | アーティスト

1977年富山県生まれ。熱海市在住。日本大学芸術学部写真学科卒業。東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了。2012年度文化庁新進芸術家海外派遣制度によりベルリン芸術大学・空間実験研究所に在籍。既にあるイメージや自らが撮影した素材をサンプリングの手法を用いて使用し、独自の関係性を導き出し再構築することで時空を超えた新たな風景や物語を立ち上げる。近年の主な展覧会に横浜トリエンナーレ2017特別企画、「2 or 3 Tigers」(Haus der Kulturen der Welt、ベルリン | 2017)、「Mode of Liaison」(BACC バンコクアートセンター | 2017)、「BODY/PLAY/POLITICS」(横浜美術館 | 2016)、KYOTO EXPERIMENT 2016など。2018年夏には京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAにて収蔵品を活用した個展形式の展示が予定されている。

### 服部浩之 | キュレーター

1978年愛知県生まれ。2006年早稲田大学大学院修了(建築学)。2009年から2016年まで青森公立大学国際芸術センター青森[ACAC]学芸員。アジア圏を中心に「公共空間」や「オルタナティブなあり方」に着目したリサーチ、プロジェクト、展覧会などを実践している。近年キュレーターとして関わった展覧会/プロジェクトは、あいちトリエンナーレ2016(愛知芸術文化センターほか、愛知 | 2016)、アッセンブリッジ・ナゴヤ(港まちポットラックビルディングほか、愛知 | 2016-)、ESCAPE from the SEA(マレーシア国立美術館、Art Printing Works SDN, BHD. | 2017)など。現在、秋田公立美術大学大学院准教授、アートラボあいちディレクター。



《栄光と終焉、もしくはその終演/End Game》2017



《NIGHTLESS》2011